

# 調査結果の概要

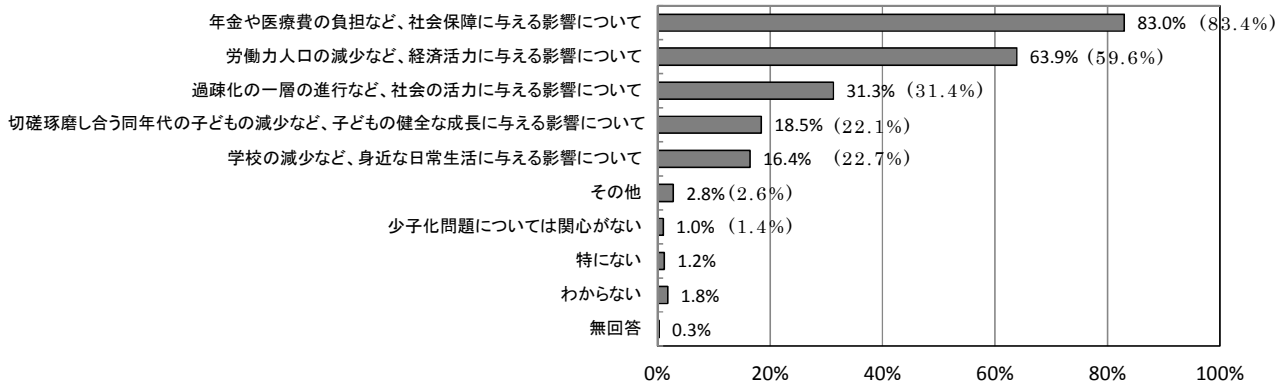
## I 少子化などに関する意識

### (1) 少子化が与える影響 (報告書 P11)

少子化が与える影響については、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響について」が 83.0%と最も多く、前回調査の 83.4%とほぼ変わらない。次いで高いのは「労働力人口の減少など、経済活力に与える影響について」であり 63.9%である。

図1 少子化が与える影響 (いくつでも選択)

N=1,387



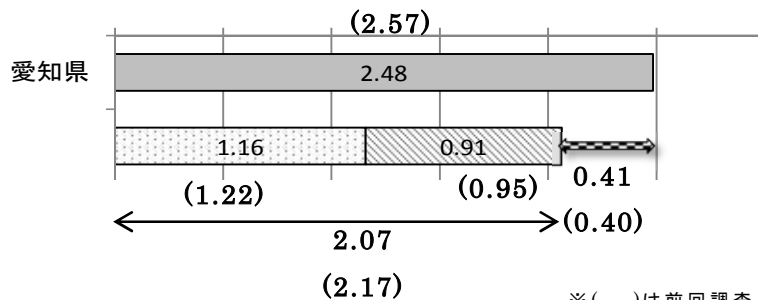
※( )は前回調査 (H20年愛知県「少子化に関する県民意識調査」)

### (2) 理想子ども数と予定子ども数 (報告書 P14)

本県の理想子ども数は平均 2.48 人、予定子ども数 (現在の子ども数 + 今後持つつもりの子どもの数) は 2.07 人で、その差は 0.41 人となっており、前回の 0.4 人とほぼ変わらない。

図2 平均理想子ども数と予定子ども数

N=1,387



※( )は前回調査

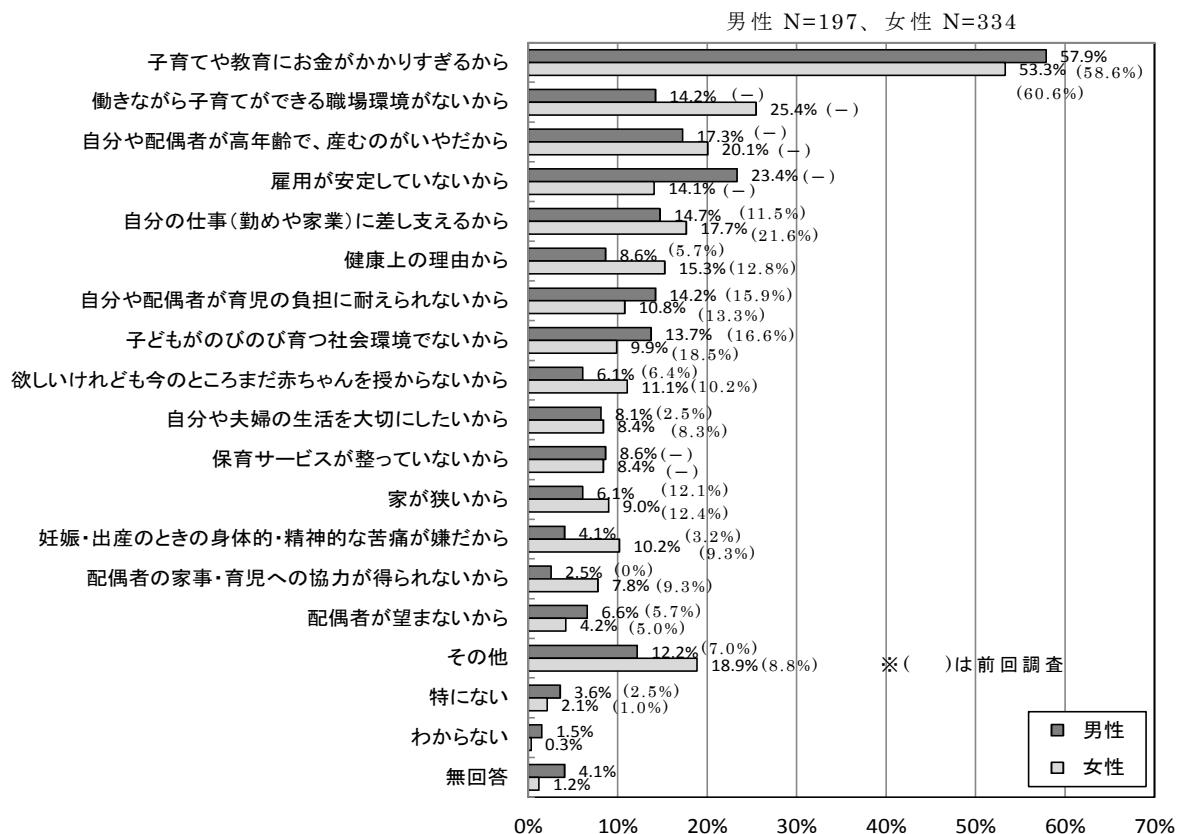
■ 理想子ども数 □ 現在の子ども数 ▨ 今後持つつもりの子どもの数

### (3) 予定子ども数が理想子ども数を下回る理由（報告書P17）

理想子ども数より予定子ども数が少ない理由を聞いたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多くて54.9%。」次いで「働きながら子育てができる職場環境がないから」が21.4%、「自分や配偶者が高年齢で、産むのがいやだから」が18.4%となっている。

男女別で差が大きい項目は、「雇用が安定していないから」で男性が高く、「働きながら子育てができる職場環境がないから」「健康上の理由から」などで女性が高くなっている。

図3 男女別 予定子ども数が理想子ども数を下回る理由（いくつでも選択）



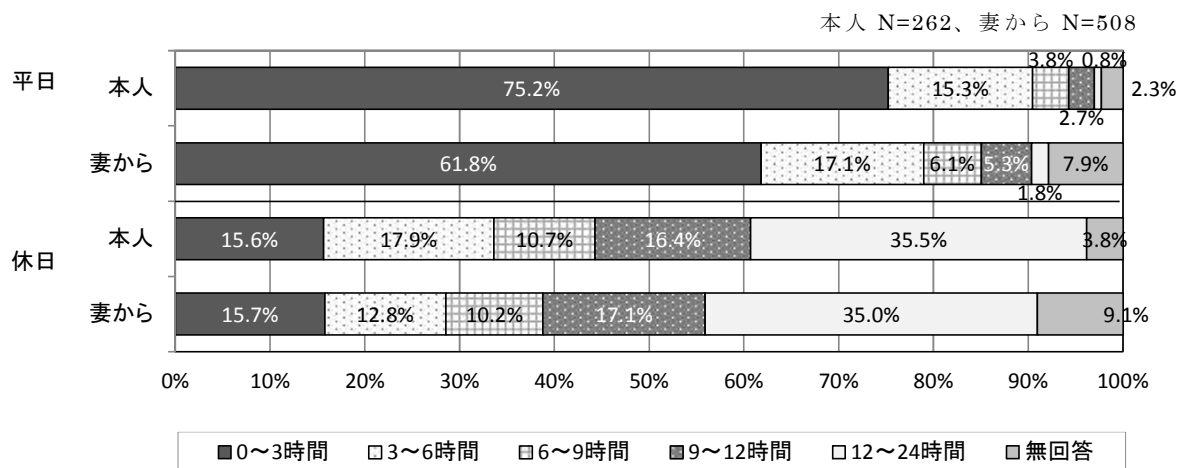
## II 子どもがいる人の子育てに関する意識

### (1) 子どもと過ごす時間（報告書 P26）

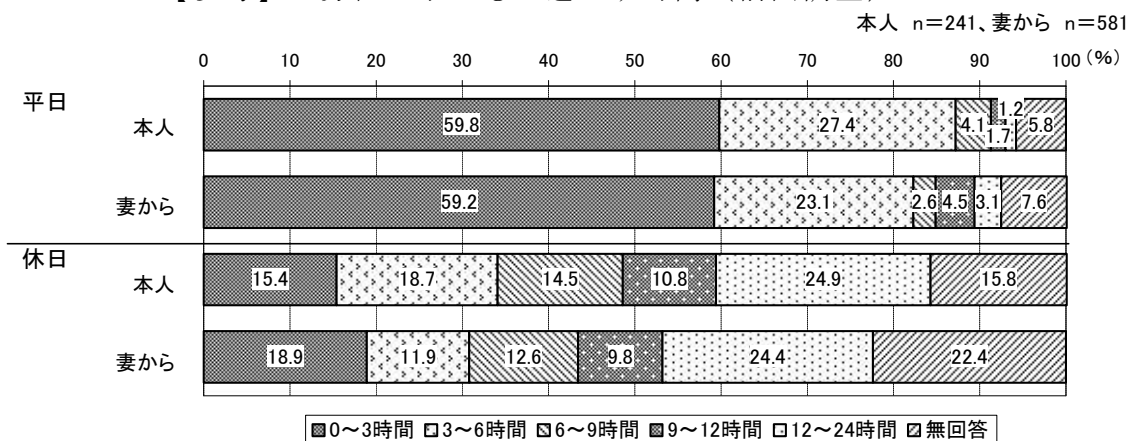
子どもと過ごす時間について、平日の男性では「0～3時間」が75.2%と最も多く、次いで「3～6時間」が15.3%となっている。前回調査では「0～3時間」の割合が59.8%であり、前回調査よりも「0～3時間」の割合が多く、「3～6時間」が少なくなっている。

休日の男性では「12～24時間」が最も多く35.5%であり、前回調査の24.9%から割合が高くなっている。また、前回調査より割合が高くなっているのは「9～12時間」であり、前回調査の10.8%から16.4%となっている。

図4 男性の子どもと過ごす時間



#### 【参考】 男性の子どもと過ごす時間（前回調査）



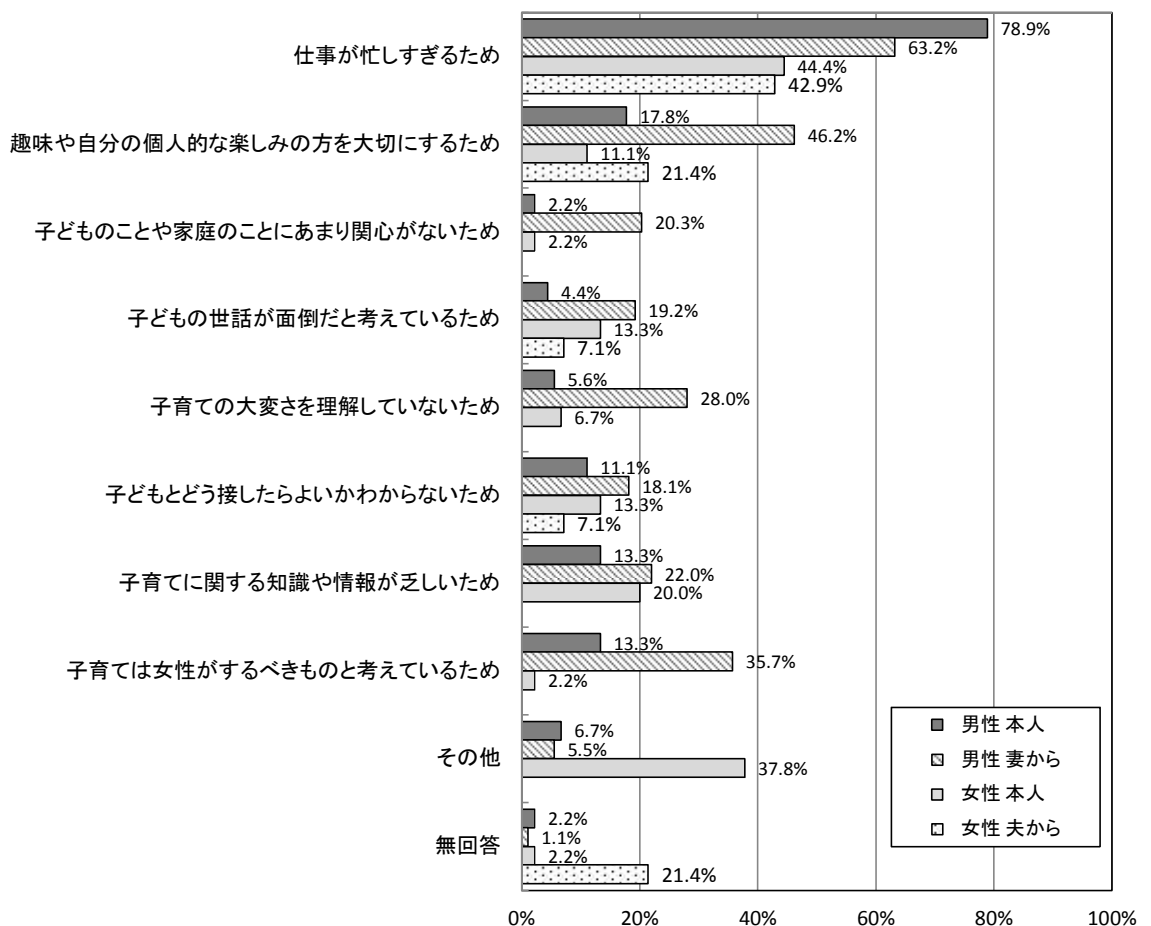
(2) 子育てへの関わりが不十分な理由 (報告書 P 35)

男性の子育てへの関わりが不十分な理由は、本人及び妻からの意見ともに「仕事が忙しすぎるため」が 78.9%、63.2%とそれぞれ最も高くなっており、前回調査の 78.9%、71.4%と大きく変わらない。

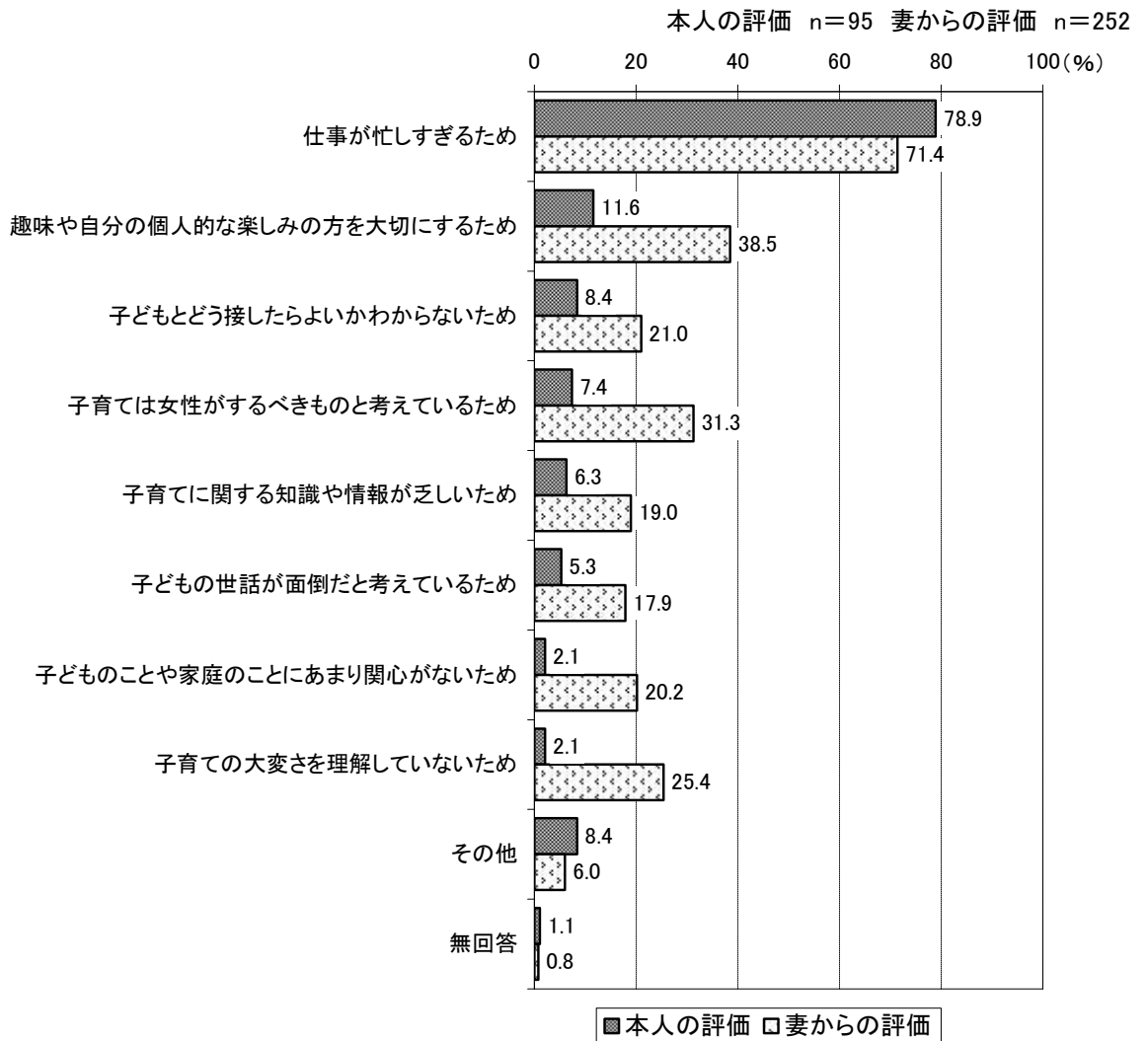
本人と妻からの意見を比較すると、「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」、「子育ての大変さを理解していないため」、「子育ては女性がすべきものと考えているため」で、妻の意見の割合が 20 ポイント以上高くなっている。

図 5 男女別 子育てへの関わりが不十分な理由 (いくつでも選択)

男性：本人の意見 N=90、妻からの意見 N=182  
女性：本人の意見 N=45、夫からの意見 N=14



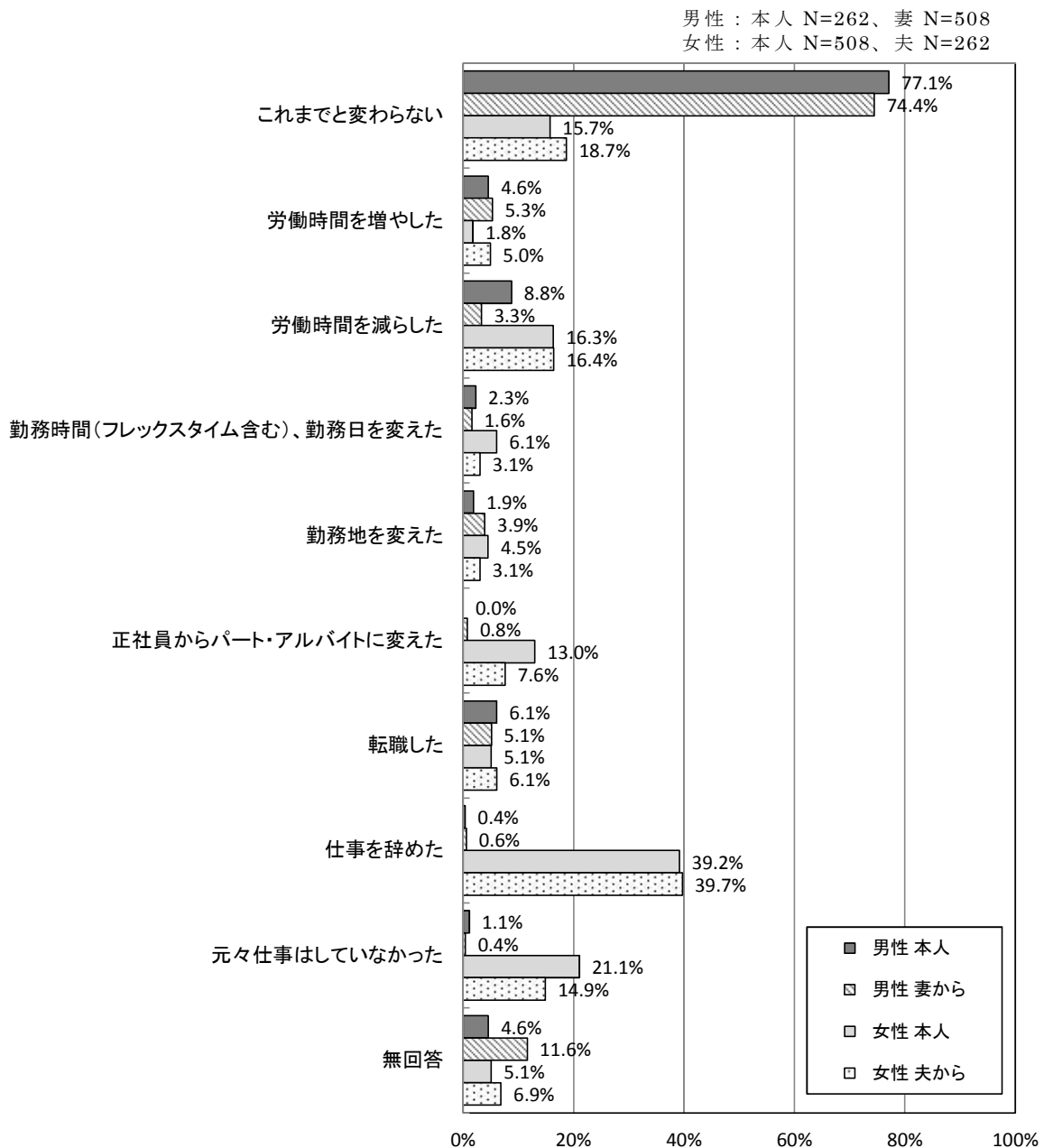
【参考】 男性の子育てへの関わりが不十分な理由（前回調査）



(3) 子どもが生まれてからの働き方（報告書P37）

子どもが生まれてからの働き方について回答者自身と配偶者について聞いたところ、男性では「これまでと変わらない」が7割以上と最も多い。女性では「仕事を辞めた」が39.2%で最も多く、「これまでと変わらない」は2割弱である。

図6 男女別 子どもが生まれてからの働き方（いくつでも選択）

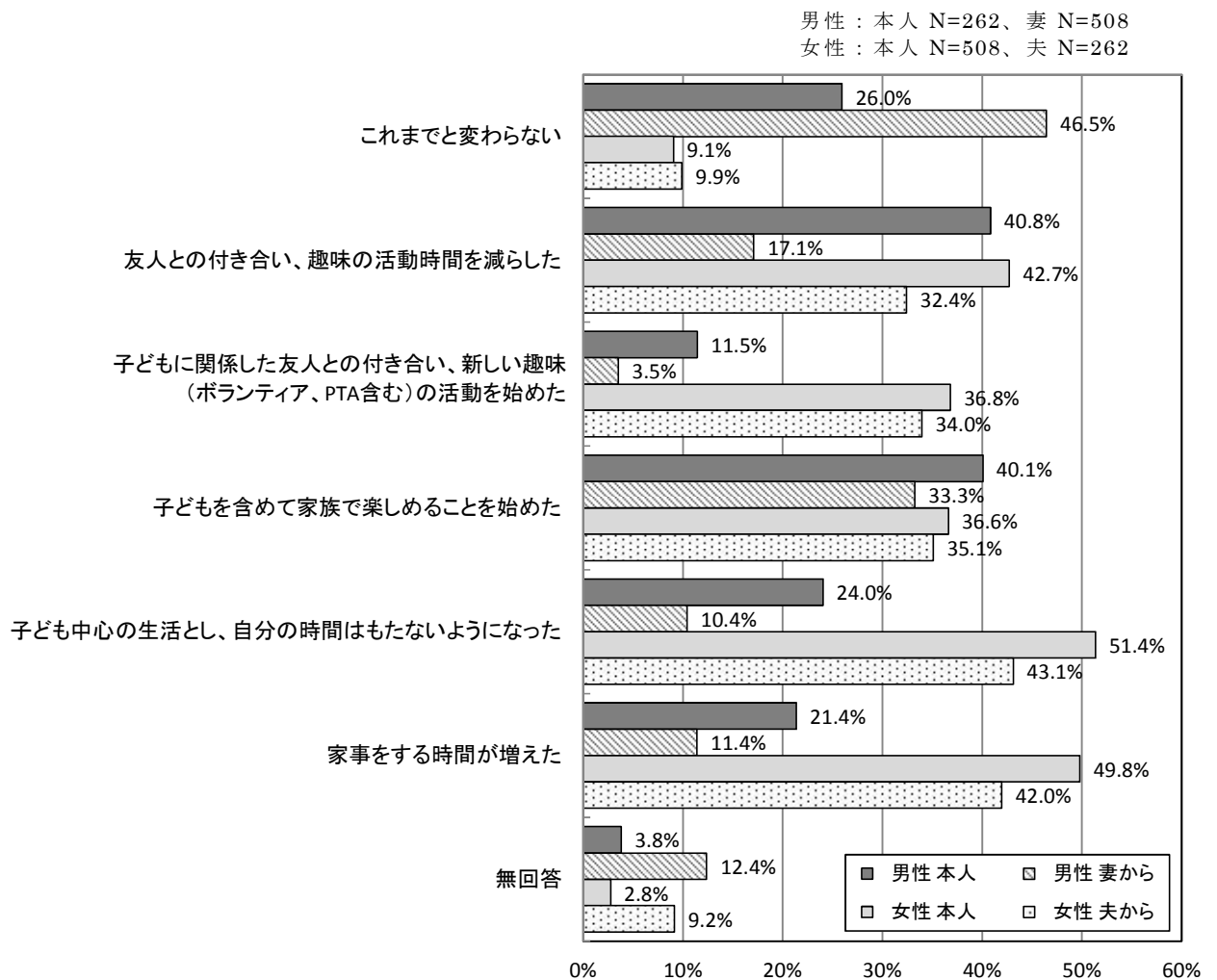


(4) 子どもが生まれてからの日ごろの自分の時間の過ごし方 (報告書 P 39)

子どもが生まれてからの日ごろの自分の時間の過ごし方について回答者自身と配偶者について聞いたところ、男性の時間の過ごし方については、自分自身では「友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした」が40.8%と最も多いが、妻からは「これまでと変わらない」が46.5%と最も多い。

女性の時間の過ごし方については、自分自身では「子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった」が51.4%で最も多くなっており、夫が「(妻は)子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった」と回答した割合も43.1%と最も多くなっている。

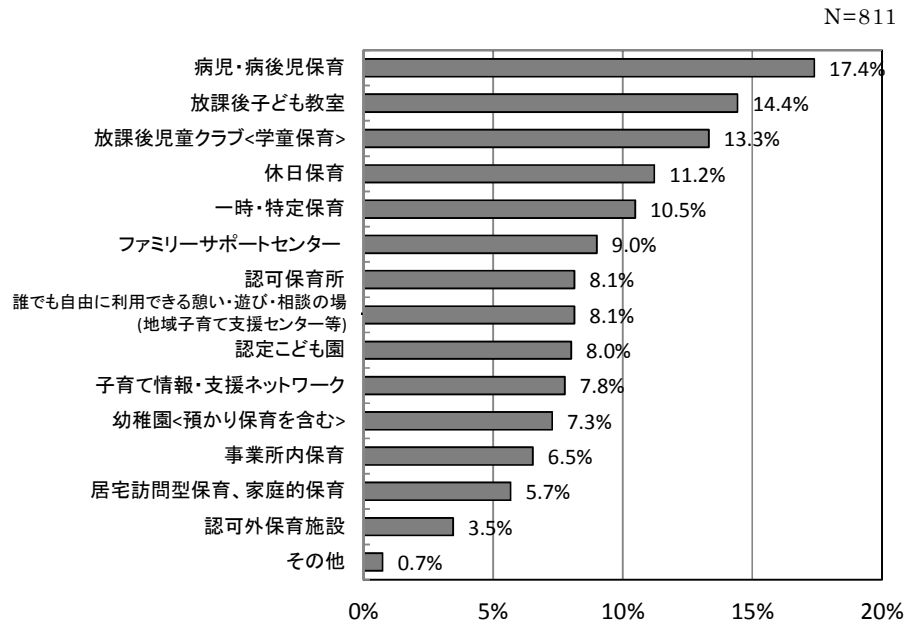
図7 男女別 子どもが生まれてからの時間の過ごし方 (いくつでも選択)



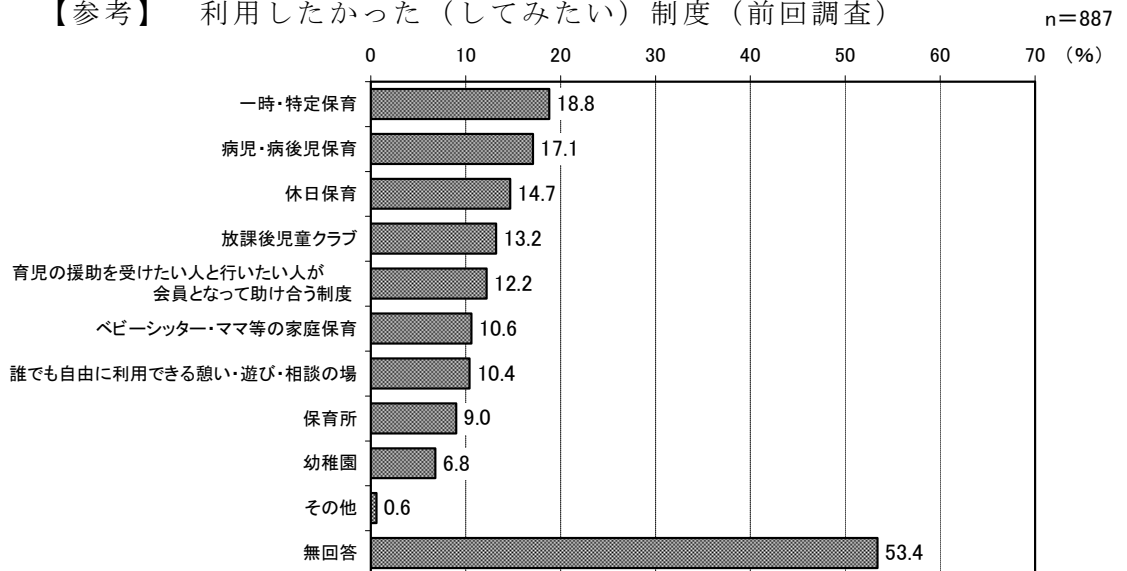
(5) 利用しなかった（してみたい）制度（報告書P46）

利用しなかった（してみたい）制度は、「病児・病後児保育」が17.4%（前回17.1%）と最も多く、次いで「放課後子ども教室」が14.4%、「放課後児童クラブ〈学童保育〉」が13.3%（前回13.2%）となっている。

図8 利用しなかった（してみたい）制度（いくつでも選択）



【参考】 利用しなかった（してみたい）制度（前回調査）

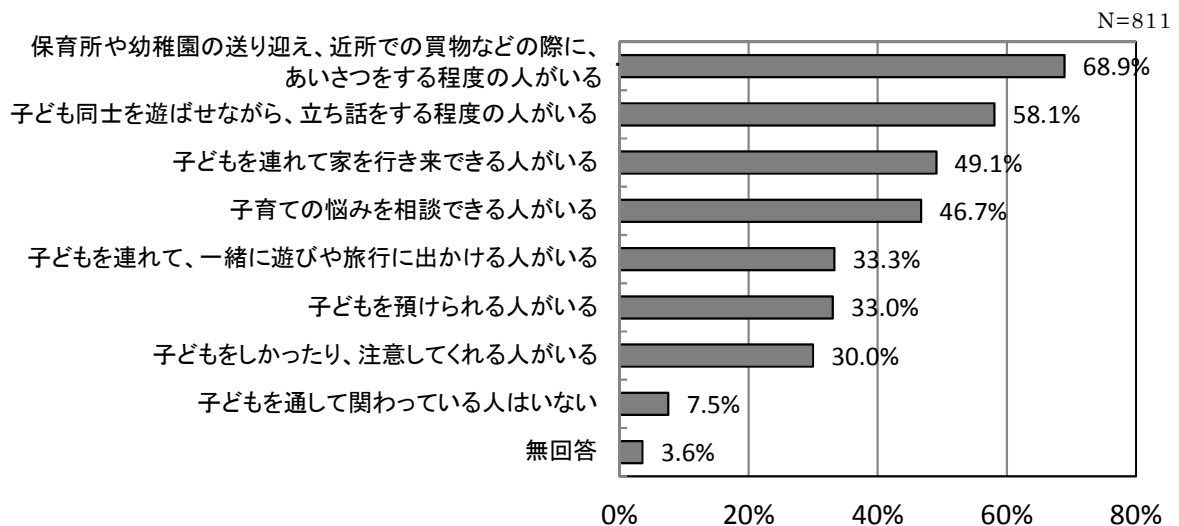




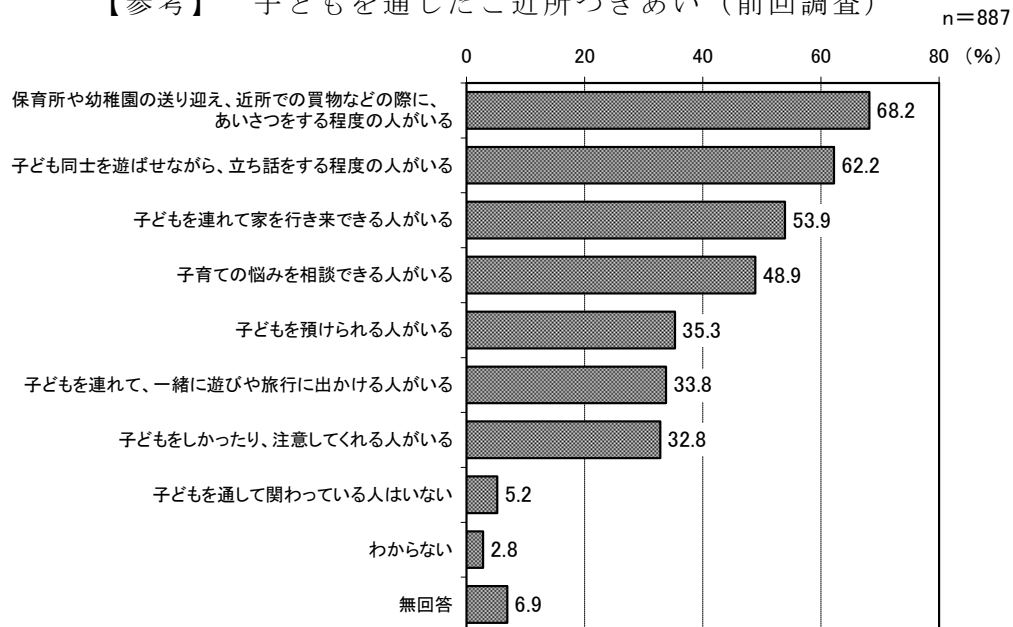
(6) 子どもを通じた近所づきあい（報告書 P 57）

子どもを通じた近所づきあいは「保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買物などの際に、あいさつをする程度の人がいる」が 68.9%と最も多く、「子どもを通して関わっている人はいない」は 7.5%で、前回の 5.2%より増加している。

図 9 子どもを通じたご近所づきあい（いくつでも選択）



【参考】 子どもを通じたご近所づきあい（前回調査）



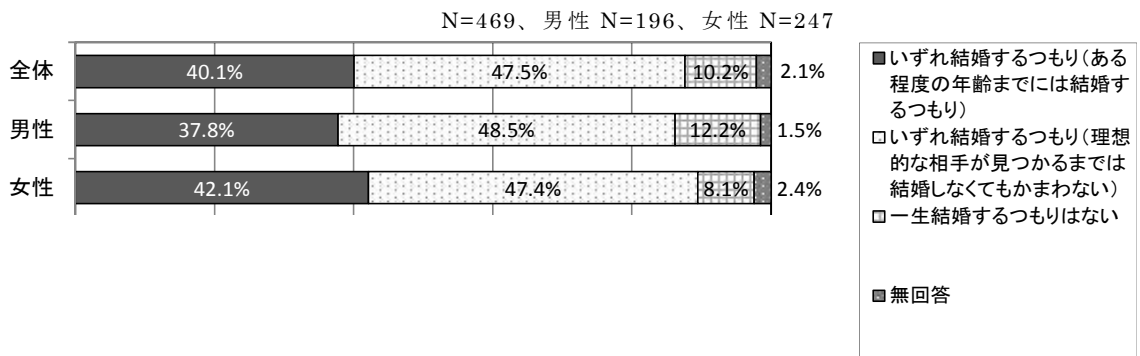
### Ⅲ 独身者の結婚に関する意識

#### (1) 結婚の意思 (報告書 P 62)

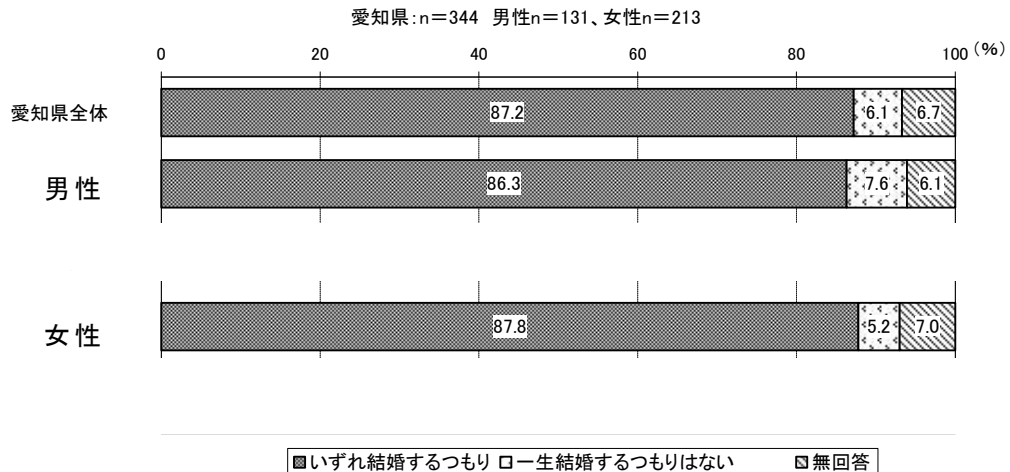
独身者に結婚する意思を聞いたところ、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」(47.5%)、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」(40.1%)をあわせた『いずれ結婚するつもり』は 87.6%となっており、これは前回調査の 87.2%とほぼ変わらない。

男女別では、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」(男性 37.8%、女性 42.1%)では女性の方が高く、「一生結婚するつもりはない」(男性 12.2%、女性 8.1%)で男性の方が高くなっている。

図 10 結婚の意思



#### 【参考】結婚の意思 (前回調査)



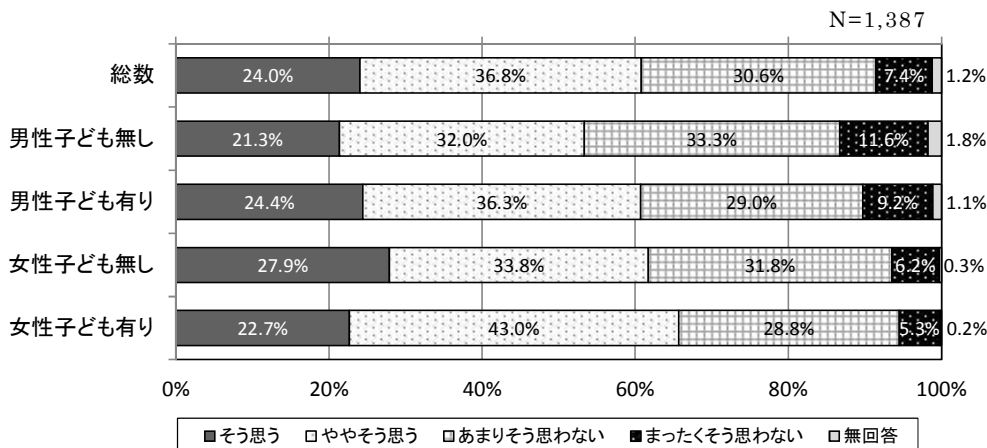
#### IV ワークライフバランスに関する意識

##### (1) ワークライフバランスの状況 (報告書 P 70)

仕事と生活のバランス（ワークライフバランス）がうまく取れているか聞いたところ、「そう思う」（24.0%）と「ややそう思う」（36.8%）をあわせた『そう思う』は 60.8%となっている。

男女・子どもの有無別では、子どもがいる女性で「ややそう思う」（43.0%）が高くなっている。

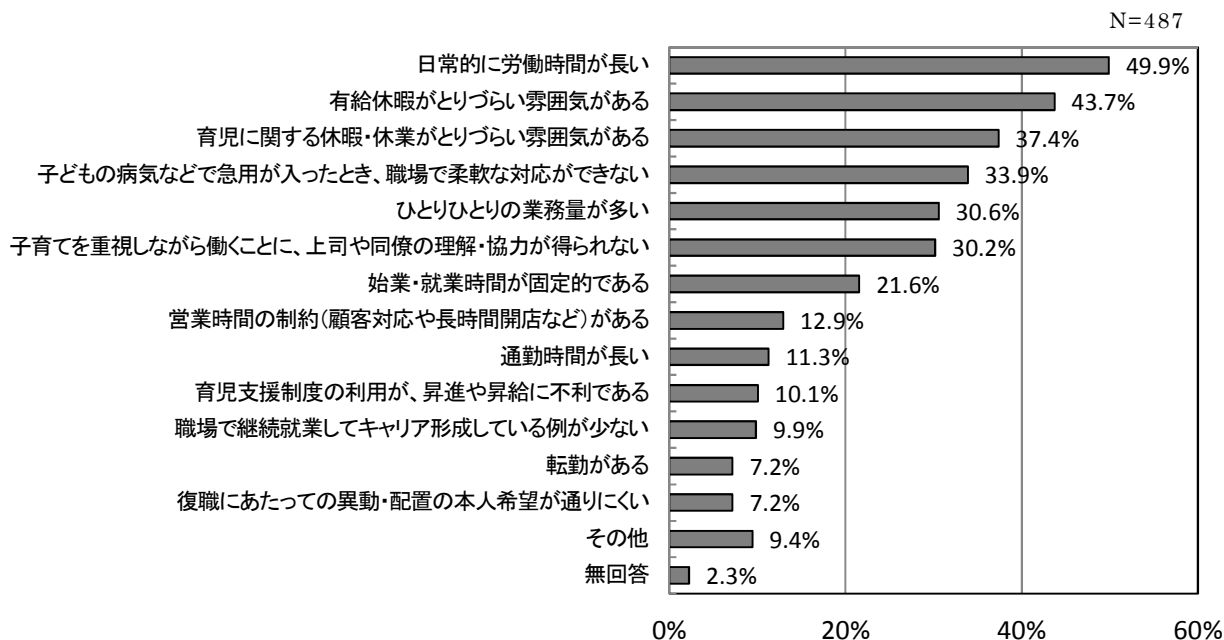
図 11 男女・子どもの有無別 ワークライフバランスの状況



##### (2) 働きやすい原因 (報告書 P 77)

職場が子育てをする人にとって働きやすいと思わない人にその原因を聞いたところ、「日常的に労働時間が長い」が 49.9%と最も多く、次いで「有給休暇がとりづらい雰囲気がある」が 43.7%、「育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある」が 37.4%となっている。

図 12 働きやすい原因 (いくつでも選択)



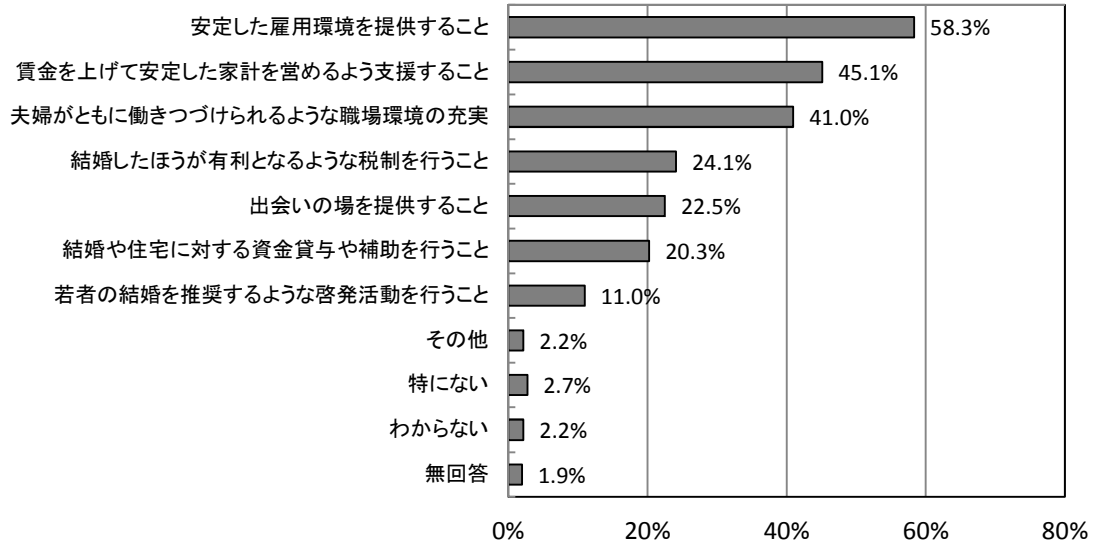
## V 期待する少子化施策

### (1) 結婚を支援する施策（報告書 P 80）

結婚を希望する人の結婚を支援する施策として何が重要か聞いたところ、「安定した雇用環境を提供すること」が 58.3%と最も多く、次いで「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」が 45.1%、「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」が 41.0%となっている。

図 13 結婚を支援する施策（3つ以内選択）

N=1,387



### (2) 育児を支援する施策（報告書 P 84）

子育てを支援する施策として何が重要か聞いたところ、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」が 46.4%（前回 63.4%）と最も多く、次いで「保育所の時間延長や保育ママなど、多様な保育サービスを充実する」が 31.6%（前回 29.0%）、「育児休業をとりやすい職場環境を整備する」が 28.5%（前回 26.3%）となっている。

図 14 育児を支援する施策（3つ以内選択）

N=1,387

